

報 告

- [人命救助で当所職員に感謝状](#)
- [国際シンポジウム・ワークショップ「生物多様性・生態系保全と京都メカニズム」が盛会のうちに閉幕](#)
- [森林総合研究所研究報告Vol.2-No.3 \(通巻388号\) 刊行 \(2003年9月発行\)](#)
- [森林総合研究所研究報告Vol.2-No.4 \(通巻389号\) 刊行 \(2003年12月発行\)](#)

● 人命救助で当所職員に感謝状

平成15年12月25日当所理事室において、12月3日に常磐線牛久駅構内で線路に転落した乗客を救助したことで、生物工学研究領域樹木分子生物学研究室の伊ヶ崎知弘さんと森林管理研究領域環境計画研究室の宮本麻子さんにJR水戸支社長から感謝状が授与されました。



感謝状が授与された伊ヶ崎知弘さん(写真左)と宮本麻子さん(写真右)

● 国際シンポジウム・ワークショップ「生物多様性・生態系保全と京都メカニズム」が盛会のうちに閉幕

早稲田大学国際会議場で1月29～30日に「生物多様性・生態系保全と京都メカニズム－生態系保全と温暖化対策の両立へ向けて－」の国際シンポジウム・ワークショップが当所共催で開催されました。初日のシンポジウムは、世界銀行のロバート・ワトソン博士の基調講演に始まり、京都メカニズムとCOP9、地域社会とCDM、CDMと生態系保全、生態系保全とCDMの両立を探る(総合討論)について、二日目のワークショップは、世界銀行のイワン・ノーブル博士の基調講演に続き、CDMのコンセプトと実践、CDM候補地の現状と適用可能性、生態系保全のための研究面からの支援、民間企業からの事例紹介について、それぞれ招待者からの講演をいただき、それらに対する質疑応答や討論を行いました。政府関係者、NGO、NPO、民間、企業、研究者、学識経験者など多岐にわたる分野から、両日で、延べ700名ちかくの参加がありました。



● 森林総合研究所研究報告Vol.2-No.3 (通巻388号) 刊行 (2003年9月発行)

論文

- 関東地方の都市近郊平地林における降水中の成分濃度と負荷量
－森林総合研究所構内における降水の観測結果－
伊藤優子・加藤正樹
- 東北地方内陸部森林地帯における降水中の溶存成分濃度の季節変化および溶存成分負荷量
相澤州平・岡本 透・池田重人
- 針葉樹人工林における落葉生産の年変動:間伐と気象条件の影響
稲垣善之・酒井 敦・倉本恵生・小谷英司・山田 毅・川崎達郎
- 皆伐後の温帯落葉樹林の二次遷移に伴う双翅目昆虫群集の変化
末吉昌宏・前藤薫・楨原 寛・牧野俊一・祝 輝男
- 中部日本におけるヤマドリ *Syrnaticus soemmeringii* の環境利用について(英文)
山口恭弘・川路則友
- カラマツの細胞壁率に及ぼす仮道管横断面寸法の影響
藤原 健

研究資料

- 宝川森林理水試験地の初沢流域における毎木調査
村上茂樹・久保田多余子・澤野真治
- 帯鋸ロール腰入れマニュアルのためのデータベースの構築方法(英文)
藤原勝敏



表紙:Vol.2-No.3
(通巻388号)

● 森林総合研究所研究報告Vol.2-No.4 (通巻389号) 刊行 (2003年12月発行)

総説

- ニホンキバチ、ヒゲジロキバチと共生菌によるスギ・ヒノキ材変色被害に関する研究
－共生菌の種と共生菌のスギやヒノキに与える影響について－
田端推進

論文

- 小川学術参考林(茨城県北茨城市)とその周辺のチョウ類相(英文)
井上大成
- 関西地域における針葉樹人工林の健全性低下(英文)
黒田慶子
- マツノマダラカミキリ生物的防除のための実験室内および野外網室におけるサビマダラオオホソカタムシの予備的放飼試験(英文)
浦野忠久

短報

- 木炭敷設による床下の温度と相対湿度の年変動
森川 岳・末吉修三
- 木炭敷設による床下の温度、相対湿度及び絶対湿度の日変動
末吉修三・森川 岳

研究資料

- 森林総合研究所所蔵の仮剥製鳥類標本目録(英文)
川路則友・東條一史・松岡 茂・高野 肇・北原英治



表紙:Vol.2-No.4
(通巻389号)